

2018年6月2日(土) 東高17回生同期会散策資料

【雑司が谷霊園】

都立霊園。文化人の墓も多い。

永井荷風、小泉八雲、小栗忠順、金田一京助、泉鏡花、夏目漱石、竹久夢二、ジョン万次郎、島村抱月、サトーハチロー、羽仁もと子など、

夏目漱石は昨年が生誕150年。雑司ヶ谷霊園は後期3部作の「こころ」に登場する。

【雑司が谷旧宣教師館】

東京都指定有形文化財。アメリカ人宣教師のマッケレーブが自宅として明治40年に建てた木造洋風建築。マッケレーブは、昭和16年(1941)に帰国するまでの34年間、この家で過ごした。その後、音響会社が事務所として使用していた。一時は取壊される危機があったが、地域住民の保存運動がおこり、昭和57(1982)年から豊島区が所有・保存している。現在は、本の読み聞かせなど、豊島区の文化活動の場にもなっている。

19世紀後半のアメリカ郊外住宅の特色を写した質素な外国人住宅で、都内でも数少ない明治期の宣教師館である。

【雑司が谷鬼子母神】

日蓮宗、威光山法妙寺の飛地境内にある。

<HPより鬼子母神の説明を抜粋>

その昔、鬼子母神はインドで訶梨帝母(カリテイモ)とよばれ、王舎城(オウシャジョウ)の夜叉神の娘で、嫁して多くの子供を産みました。

しかしその性質は暴虐の上なく、近隣の幼児をとって食べるので、人々から恐れ憎まれました。

お釈迦様は、その過ちから帝母を救うことを考えられ、その末の子を隠してしまいました。その時の帝母の嘆き悲しむ様は限りなく、お釈迦様は、「千人のうちの一子を失うもかくの如し。いわんや人の一子を食らうとき、その父母の嘆きやいかん」と戒めました。

そこで帝母ははじめて今までの過ちを悟り、お釈迦様に帰依し、その後安産・子育ての神となることを誓い、人々に尊崇されるようになったとされています。

鬼子母神は、法華経の守護神として日蓮宗・法華宗の寺院で祀られることが多く、東京では、雑司が谷の他に入谷の鬼子母神堂も有名。千葉中山の日蓮宗大本山、法華経寺の鬼子母神とともに江戸3大鬼子母神といわれる。

鬼子母神堂は天正6年(1578)の創建。現在の本殿は寛文4年(1664)に、前田利常の息女で安芸藩主浅野家に嫁した自昌院殿の寄進により建立されたもので、豊島区内最古の建造物。平成28年、国の重要有形文化財に指定された。

★境内の大イチョウとケヤキ並木

応永年間に植えられた樹齢600年の大イチョウは、子授けイチョウ、子育てイチョウとして親しまれている。参道のケヤキ並木は、天正年間に雑司ヶ谷村の住人長島内匠が奉納したものとされ、樹齢400年。大イチョウ、ケヤキ並木ともに、東京都の天然記念物に指定されている。